

MMO TIMES

エムエムオータイムズ

Traffic Safety

2015年(平成27年)3・4月号もくじ

- 三重県交通安全研修センター様
体験学習ゾーンをリニューアル・・・(1)
- 特集記事 飲酒実験・・・(2)
- NEWS
10年以上お使いの機器の
入れ替えが進んでいます！・・・(2)
- 自転車シミュレーター
ソフトバージョンアップのご案内・・・(2)

MMO新聞 [MMO TIMES]

マイクロメイト岡山(株) 発行
営業本部 岡山市北区奥田本町22-4 〒700-0932
TEL 086-231-0900 FAX 086-226-0900 <http://www.mmo-co.com/>

三重県交通安全研修センター様 体験学習ゾーンをリニューアル

1月28日、三重県運転免許センター内にある、三重県交通安全研修センター様の体験学習ゾーンリニューアル開所式が開催された。



当日は三重県職員・三重県警をはじめ近隣の幼稚園の園児、みえ長寿推進協力員津連絡会や三重県交通安全母の会連合会・三重県交通安全研修センターの職員などおよそ100名が出席した。開所式の終了後には、リニューアルされた機器や自転車乗車体験コースなどを出席者それぞれが体験していった。

今回のリニューアルでは従来の展示ゾーンを体験学習ゾーンとして一新し、歩行者や自転車の交通事故防止のため、危険な場面を体験できるシミュレーターや、実際に自転車や三輪車に乗って走ることができる自転車乗車体験コースなど子供からお年寄りまで幅広い年代が体験できる12種類の機器を揃えた。

様々な立場で交通安全を学ぶ

今回のリニューアルの一番の目玉は、館内で自転車・三輪車に乗って交通安全が学べる「自転車乗車体験コース」である。コースの途中には坂道、凸凹道、シーソー、一本橋、また先が見えにくい交差点で必ず一時停止をする場所や踏切などがあり、楽しみながらルールを守った安全な走行の仕方を学ぶことができる。

その他、子供向けに自分の顔写真が入る「来館記念カード発行機」や、交通標識・ルールなどをクイズ形式で学び、結果と名前・顔写真が印刷されたカードが発行される「交通安全クイズタッチくん」、そして「自転車シミュレーター」などを設置。

多人数の集合教育にも対応できるように、ただ一方的に話を聞くだけではなく、受講者の参加意識も高め、理解度が確認できるように受講者が反応キーでクイズに答える「マルチメディア紙芝居」も非常に人気が高い。

運転者向けには、運転に重要な眼の機能(視力・視野・動体認知力・動体視力)や認知・判断・操作を検査する「運転歩行能力診断 点灯くん」、シートベルトとエアバッグの効果が体験できる装置など、研修に使用できる装置も充実している。

また、子供からお年寄りまで、道路の正しい横断の仕方が学べる「歩行環境シミュレーター」もあり、交通場面における全ての立場での体験学習ができる施設となった。



自転車乗車体験コース(踏切)



自転車乗車体験コース(一時停止)



自転車乗車体験コース(シーソー)



自転車乗車体験コース



マルチメディア紙芝居



自転車シミュレーター



交通安全クイズ タッチくん



来館記念カード発行機



キッズフリースペース



歩行環境シミュレーター



シートベルト・エアバッグ効果体験



運転歩行能力診断 点灯くん

特集 第9回 飲酒実験

少量でも運転機能に影響

なかなか減ることのない飲酒運転。少量の飲酒が運転に必要な諸機能にどのような影響を及ぼすのか調査するため、平成27年1月17日(土)「交通安全まなびのば」にて、ボランティアで集まった18名の協力を得て、第9回飲酒実験を行った。

飲酒運転撲滅隊結成

今回はすぐに飲酒実験に入るのではなく、飲酒運転の怖さを知り、参加者だけではなく参加者の所属先や地域にも広めるため、川崎医療福祉大学の金光義弘先生による飲酒運転の危険性に関する講義と、実験協力者としても参加されたシンク出版(株)より発行されている冊子「酒気残りによる飲酒運転を防ごう」に掲載されているクイズを実施した。



講義とクイズの後には、参加者全員が「飲酒運転撲滅隊」に任命され、次のような任命証が配布された。



実験開始後は、飲酒前検査

後には10名中5名と、約半数が運転できると回答した。「今、酔いは覚めていますか?」という問いに関しては、飲酒終了後90分が経過した後から酔いは覚めているとの回答が多くなり、120分後には、半数の人が酔いは覚めていると回答した。

呼吸はゼロでも

アルコールは抜けていない尿検査

実験協力者自身が、自分の酔いは覚めた、と自己申告した時点で行った呼吸検査で、呼吸中のアルコール量がゼロになっていた人は5名いた。しかし尿検査でアルコール量がゼロになっていた人は0名であった。

これは、飲酒を行った者自身が、自分は酔いが覚めていると感じていても、身体からはアルコールが抜けきっておらず、運転機能にも影響を及ぼす可能性がある、ということを示している。

意識と数値に差

呼吸検査・意識調査

呼吸検査を行う前には質問用紙を用意し、「これから測定する呼吸中のアルコール量はどの位あると思いますか?」と、実験協力者に予測をして頂いた。

飲酒直後の検査では、自分の呼吸中アルコール量を実際の数値より少なく予想した者が17名中14名いた。

つまり、自分の酔いを過小評価する者が多く見られた、ということになる。

また、「今の状態で、運転はできますか?」という問いに対しては、2単位群では、飲酒直後の調査で10名中3名が運転できると回答した。120分



誤認識・反応の遅れが増加

動体認知診断

突発的に画面上へ表示されるターゲットに対していかに早く正確に反応できるかの検査を実施した。

飲酒前に実施した検査と飲酒終了直後・120分後を比較したところ、飲酒直後の検査で反応の遅れ率が高くなった。(17名中10名)

次に、誤り反応率も同様に飲酒終了直後に高くなっており、こちらは17名中5名となっている。

これは、飲酒を行うことにより、突然飛び出してくるものに対して認識の誤りが多くなり、反応の遅れも目立っていることを示している。

運転時に重要な

手・足の操作へ影響

複雑な車線のコミュニケーション道路を走行しながら、歩行者や自動車に対応する検査(注意配分/複数作業検査)を行い、反応や反応むら・正確性、ハンドルの操作の正確性などを測定した。



飲酒前に実施した検査と飲酒終了直後・120分後に実施した検査の比較では、飲酒終了直後の検査にて、アクセルの平均反応時間が遅くなる人が多く見られた。またブレーキ反応の平均反応時間が飲酒前に比べ長くなる、ハンドル操作の誤差率が高くなるなど、運転時に重要な操作への影響が多くなるという結果が出ている。

ほんの少しでも

「乗るなら飲むな」

今回は、少量の飲酒が運転に必要な諸機能に及ぼす影響について調査を行った。

呼吸検査や意識調査、尿検査等の結果から見えてくるのは、飲酒を行った者自身が少量なもので酔いは覚めているという意識を持っていても、体内にはアルコールが残留しており、運転行動にも支障をきたしている、ということである。

今回の実験においては、2単位群の多くの方が2時間後には酔いが覚めているという意識が高くなっているが、実際にアルコールが体内から抜けるには時間がかかるということが尿検査の結果からも明らかとなっている。つまり深酒をした翌朝などは、体内にアルコールが残っている可能性が高く、運転は控えるなど、特に注意が必要である。冒頭に述べたとおり現在、次の学会へ発表する準備を進めている。

NEWS

十年以上お使いの機器の入れ替えが進んでいます!



四輪シミュレータなど、導入されてから10年以上お使いの機器の老朽化が進み、入れ替えをいただくとケースが増えています。

導入事例(四輪シミュレータ) 湯田自動車学校様

NEWS

自転車シミュレーター ソフトウェアアップの案内



↑自転車シミュレーター (組み立て簡単キット型)

HONDAより発売されております、自転車シミュレーターソフトウェアがこの度バージョンアップされ、より活用しやすい仕様となりました。

今回のバージョンアップによって、普通自転車専用通行帯の追加や交差点の自転車横断帯の廃止など、近年の法改正に基づいた変更が加えられています。

また、薄暮時・夜間等にこれまで自動点灯していたライトを手動で点灯できるように変更する機能や進路指示矢印のON/OFF設定機能など、新しい機能も追加され、より利用しやすくなっています。

編集後記

「少量しか飲んでいないので酔いは覚めた」と自分で判断しても、身体の中にはまだアルコールが残っている、ということが今回の実験の結果にも出ています。「少し休んだら大丈夫」という考えをやめ、飲んだら絶対に乗らない、という意識を持つことが重要です。